



さいわい

幸

く

区

幸区は市内7つの区の中で最も面積が小さい区ですが、区の玄関口ともいえる川崎駅西口をはじめ、区のあちこちで再開発が進み、まちの様子も大きく変わりました。

まちの移り変わり

川崎駅西口再開発と 音楽のまち・かわさき

●再開発ってなに？どうしてするの？

下の2つの写真を見比べてみましょう。20年くらいの間に川崎駅の周りの様子がずいぶん変わっていますね。1984年(昭和59年)ごろの写真では、駅の西側は大きな工場を中心としたまちでしたが、2007年(平成19年)の写真では、工場がなくなって、商業ビルや音楽ホールを中心として高層マンションが建つまちに変わっています。このように、人々の生活の変化に合わせて、もともとの古いビルや家々を新しくつくり変えて、にぎわうまちにしたり、住みやすいまちにしたりしていくことを再開発といいます。再開発によって、まちは生まれ変わっていくのです。川崎市では他の場所でも再開発が行われています。他の場所ではまちがどのように変わったか調べてみましょう。

1984年
(昭和59年)
ごろの
川崎駅西口の
写真



2007年
(平成19年)の
川崎駅西口の
写真



まちづくり事例だよ！

●川崎駅西口再開発の目玉はミュージア川崎

川崎駅西口の再開発の中で、2004年(平成16年)7月、音楽ホール「ミュージア川崎シンフォニーホール」ができました。

大きなホールではおよそ2000人の人たちが演奏を聞くことができ、世界的にも有名な音楽家が素晴らしい演奏を披露しています。また、市民のみなさんが音楽の練習をしたり発表会を開いたりできる市民交流室もあります。

川崎市のセールスポイントのひとつ「音楽のまち・かわさき」のシンボルとなっています。



ミュージア川崎シンフォニーホール

●「夢こんさあと」を支えている人たち

「区役所や市民館など身近な場所でだれもが楽しめるコンサートを。」

そんな思いで、1997年(平成9年)から地域の人たちが中心となって、お昼どきのコンサートを開いています。区役所と地域の人協力しあって行う「夢こんさあと」として親しまれ、2011年(平成23年)6月には100回目の開催になりました。

これからも、区内のさまざまな場所で、定期的なコンサートを開いていこう、まちと音楽を愛する人たちが続けていきます。



幸市民館での夢こんさあと

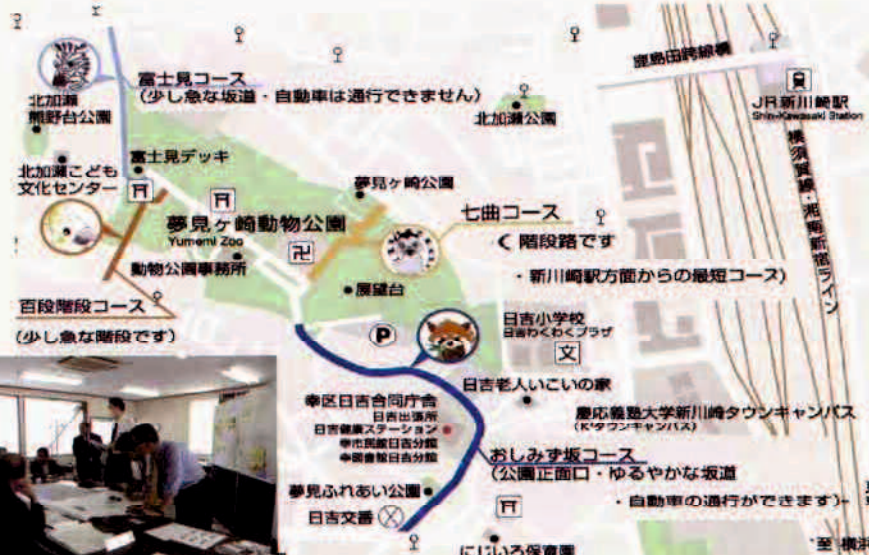
トピックス2

動物たちが案内してくれるよ！ 夢見ヶ崎動物公園

まちでよく見る案内板。
案内板があることで、行きたい場所にすぐ行くことができますが、もし、案内板でそこがどうい場所なのかもわかると、そのまちに親しみを感じ、行くのがさらに楽しみになりますね。

そんな楽しい案内板が、夢見ヶ崎動物公園に行く4つのコースにあります。

その案内板は、区民のみなさんと川崎市が話し合ってつくりました。



加瀬山と夢見ヶ崎動物公園の魅力をたくさんの人たちに知ってもらいたいと、昔から地域で使われている坂道の名前も入れるなど、いろいろ話し合いながら決めていきました。みんなも自分の住むまちのまちづくりに参加してみませんか？

まちづくり事例だよ！